

諫早湾の干潟を守る諫早地区共同センターだより

【略称：諫干共同センター】

No.25 2012年11月12日

文責：事務局長 坂田輝行

第2回 諫干現地観察会

瑞穂町・西郷川河口干潟観察



ここは瑞穂町の西郷川河口干潟。遠くに南部排水門が見れる。

左が雲仙、右が諫早湾である。撮影は大潮干潮時。砂礫質の干潟である。堤防から手前が干潟である。中央に緑色の植物群落がある。

干潟は真っ平らではなく、小さいながらも凹凸があり、凸部は砂礫がむき出しになる。中央の植物群落は凸部にある。河床などの凹部は砂礫の表面を薄く泥が覆う。カニや貝など環境が異なれば生きものたちも違ってくる。

ここは、満潮時には潮で覆われる。

右は巻き貝。左の1個体はフトヘナタリ、他はすべてウミニナ。いずれも泥質部に生息。これらの種は絶滅が心配される。

かつて、締切前の広大な諫早湾泥干潟にはヘナタリ類（フトヘナタリ、シマヘナタリ、クロヘナタリ）がたくさん生息していた。



左は紅葉のシチメンソウ（左）とハママツナ（右）。シチメンソウはここでは凹部の泥質部に育つ。量的にも少ない。茎の長さは約30cmでスックと直立する。ハママツナは砂質・砂礫質な環境、ここでは凸部に生育する。地を這うように広く成長する。シチメンソウの茎は硬いが、ハママツナの茎は柔らかい。



(右写真)

今回参加の集合写真。今回は天気は晴れていたが、風が強く寒さを感じた。海は内陸に比べて風が強いので寒さ対策が必要。

干潟の観察はできるだけ長いゴム長靴が良いを実感。

桃下先生は自然大好き人間。自然をこよなく愛している。詳しく丁寧に説明して頂いた。感謝です。

来年、暖かくなって、また干潟観察をお願いします。